

平成28年度「京都市生涯学習市民フォーラム」シンポジウム
京都から世界へ！市民が主役 暮らしの中にある文化
～文化の継承による日本の創生～

みなさんこんにちは。生涯学習マスコットのマナビィです。ブンブン飛び回って、皆さんの学びを応援しています！

平成28年11月5日、京都で活動する約230の生涯学習関係団体のネットワーク「京都市生涯学習市民フォーラム」の総会が、京都堀川音楽高校アリーナで開催されました。

シンポジウムでは、市民の暮らしの中にある文化を通じての京都のまちづくりについて、松本会長と門川市長が、ゲストに稲岡亜里子さんを迎えて語り合いました。



平成28年11月5日（土）午後4時～5時 京都堀川音楽高校2階 アリーナ

◆ パネリスト 松本 紘 氏 京都市生涯学習市民フォーラム会長 ※コーディネーター
稲岡 亜里子 氏 本家尾張屋16代目当主、写真家
門川 大作 京都市長

◆ はじめに

（松本会長）

今日は、門川市長と稲岡さんがお越しですので、私は司会に徹しようって言いまして、市長が先ほど「聞き役にまわるから」とおっしゃっていたのですが、そうおっしゃらずに、いろいろとお話をお聞きしたいと思います。

本日のシンポジウムのテーマは非常に長いのですが、一言で言いますと「京都で長年蓄積されてきた文化の力を基にして、将来をどうしていくかということ」を市民レベルで考えましょう」ということです。

そういう意味で、パネリストには、本家尾張屋の16代目当主の稲岡亜里子さんに来ていただきました。稲岡さんは写真家としてもいろんな活動をしてこられたと思います。ご活躍は京都だけにとどまらないと思いますので、自己紹介も含めてそのあたりからお聞きしたいと思います。

（稲岡さん）

私は、烏丸御池の近くにある蕎麦屋の尾張屋の長女として生まれました。弟がいますので、家は弟が継ぐものと思っていましたから、子どもの頃は尾張屋の跡継ぎになるなんて思いもせず自由に育ちました。

物心ついた頃には外国にすごく興味を持ちまして、中学校3年生ぐらいの時に「海外留学をして語学を勉強したい。もっと広い世界を見たい」と思い、高校2年生の時に留学をしました。アメリカのサンディエゴの高校に2年間通い、そこで写真と出会いまして、大学もニューヨークの美術大学に進学し、写真を専攻しました。

大学卒業後は10年間、ニューヨークをベースにして写真家としての活動

まつもと ひろし 氏 プロフィール



前京都大学総長。専門は宇宙科学・宇宙電波工学。「生存圏研究所」「iPS細胞研究所」の開設やグローバルリーダーを育成する大学院「思修館」を創設。2015年から我が国唯一の自然科学の総合研究所である「理化学研究所」の理事長として、世界のRIKENを牽引。

いなおか ありこ 氏 プロフィール



ニューヨークで写真を学ぶ。写真集『SO L』（赤々舎）は、アイスランドの自然の風景を京都のお寺や神社の記憶と重ね合わせながら撮った心象風景シリーズ。2018年にはアイスランド国立美術館で個展予定。創業550余年の歴史を持つ老舗蕎麦と菓子屋の本家尾張屋16代目当主。

をしてきました。世界中の国の人たちが住むニューヨークはすごく刺激的で、ニューヨークに世界の全てがあるという感じがしていたのですが、30歳を手前にして、「自分はニューヨークの中にあるインドやアフリカを知っているだけで、まだ本当のインドやアフリカ、アジアの国々を見ていない」と気づきました。そこで、30歳の時に帰国を決め、東京に写真家としてのベースを置きながら25か国くらい旅しながら写真を撮ってきました。

◆ 京都の文化の再発見

（松本会長）

10代の半ばまで日本で暮らされて、その後は外国の文化を見てこられたんですね。初めての海外暮らしでサンディエゴやニューヨークで感じられたものと、子どもの頃に京都で育ち、京都のいろんな生活を通じて感じた文化・雰囲気とはどういう風に異なると感じましたか。



稲岡さんの作品：シリーズ「Eagle and Raven」より

（稲岡さん）

子どもの頃は金閣寺の近くに住んでいまして、金閣寺や仁和寺といったお寺が遊び場でした。また、京都は山にも近いので自然ともふれ合って遊んでいました。今思えば、京都にある日本の良さというものを感じながら育ったのだと思います。当時、それは当たり前前で、そのすばらしさというものをわかっていなかったと思います。

ニューヨークやサンディエゴはすごく刺激的ですばらしいまちでしたが、京都とは全然違うところでしたね。日本に帰ってきた後も世界のいろんな所を旅しましたが、京都のように自然が身近にあり、まちの中にいくつもお寺や神社があってその壁の向こうにはきれいな水が流れ、木々が立ち、空気が神がかっているようなまちはそうはありません。そういったものが日常の中にある京都という場所は、当たり前じゃない場所なんだなって気づきました。

（門川市長）

嬉しいですね。尾張屋さんは550年続いているんですね。アメリカ大陸が発見される前から続いているんですね。

その娘さんが、アメリカに憧れてアメリカに行ってしまった。でも、嬉しいことにアメリカ人とご結婚して旦那さんを連れて京都に帰ってこられた。そして、世界を視野に活躍されながら、今は京都で赤ちゃんを育てておられる。妹さんも同じと言っておられましたね。これは嬉しいですね。

今、世界中から多くの観光客が来られています。アメリカ人も多いのですが、去年1年間でアメリカから日本に来られた人の中で、京都に泊まれた人は85%もおられるんです。アジアの人も多いけれど、欧米の方が結構京都のまちを歩いています。

京都の何に憧れて来られるのかと言うと、やはり千年を超えて京都の人々が大事にしてきた「暮らしの美学」とか「生き方の哲学」です。外国の方が来られた時に「市長、どこか1ヶ所行ったら良いところを教えてください」とよく聞かれます。この返事は難しいですね。その時に「まあまち中を歩いてくださ

ニューヨーク

アメリカ合衆国東海岸のニューヨーク州の都市。人口約840万人。国内最大の都市であるとともに、経済、文化、娯楽など幅広い分野における世界的な中心地。様々な人種や民族が共存する。



サンディエゴ

アメリカ合衆国西海岸のカリフォルニア州の都市。人口約140万人。メキシコに接する国境の都市であり、海軍などの基地が多く、ハイテク産業が発展。温暖な気候で、海、山、砂漠など自然環境にも恵まれている。

平成27年京都観光総合調査



- ・年間観光客数：
H26 5,564 万人 → H27 5,684 万人
(2.2%増, 120 万人増) ※過去最高
- ・外国人実宿泊客数：
H26 183 万人 → H27 316 万人
(73%増, 133 万人増) ※過去最高
- ・観光消費額：
H26 7,626 億円 → H27 9,704 億円
(27.2%増) ※過去最高
- ・修学旅行京都市シェア：
H26 32.2% → H27 32.3%
(0.1 ポイント増。中学生では対象生徒のうち63.3%、約3人に2人が京都に来てことになる。)
- ・約4割の観光客が京都市民のおもてなしを実感
- ・外国人観光客は「まちの清潔さ」「寺院・神社、名所・旧跡」「治安」「自然・風景」を高評価

い、100mか200m歩いたら必ずお地蔵さんがいます。そこにきれいな水がお供えされていてお花が活けてあります。世界に宗教都市はたくさんあり大きなお寺や教会があるけれど、こんなまちは珍しいのじゃないですか」と言ってます。その後にお会いしたら「市長の言うとおりでしたね」と言われます。このまちを歩けばそういう人々の大事にしてきたものが昔からつながっている。これを次世代にもつないでいかなあかんと思うんですね。

◆ まちの雰囲気に見る文化

(稲岡さん)

誰がお花を替えているのかほとんど目にしないのですが、いつもきれいなお花がありますね。私も子どもの時からお地蔵さんの前を歩くと、何となく立ち止まってペコッとおじぎをしています。なぜかそうせずにはいられない、何かこう守られているというエネルギーが日々の中にあります。見えない力を本当に大切に、日々人々が感謝しているというのが他のまちにはなかなかないところだなと思います。

(松本会長)

文化の香りやそのまちの持つ独特の雰囲気、それを知ろうと思うとある程度は住まないとわからないですね。私も50か国以上は行っていますが、滞在期間が短く、なかなかその国の文化や独特の雰囲気などは十分には感じられていません。

ただ、アメリカ人はみんな愛想がいいですね。いつもニコニコしていますよ。全然知らない人とまちで会っても「ハーイ！」とか言うんですね。フランス人がそれを見て、「なんだあの顔の筋肉の弛緩は…」と言っていましたけど。フランスなんかはどっちかいうと日本と似ていて、親しい人同士はニコニコしていますが、知らない人には硬い顔をしています。

文化の違いはどこにでもありまして、東京に行っても感じます。東京というのは日本中から人が集まっていて、外国の方もずいぶんたくさん仕事でみられています。ですから表面的には非常に愛想がいいですね。まあ怒ったような顔をしている人は滅多にいませんが。

京都というのはその点、雰囲気が全然違うと思います。京都では人と人のつながり、家と家とのつながり、それがまち全体に広がっているという感じが非常にします。東京やニューヨークでは、個人が主体であんまりそういう社会的なつながりは見えないんですよ。何かあるんでしょうか、分からないと言った方が正しいのかもしれませんが。そんな感じを私はしているんですが。稲岡さんはニューヨークをどんな風に感じられましたか。

(稲岡さん)

住んでいたのが経済成長のすごかった1995年からの10年間だったこともあるのか、当時はパッと出会ってすぐに友達になれる、ニューヨークならではの、人と人のつながりの面白い場所という印象があります。

でも、新しい人が集まっているだけに、自分の損得みたいなものをみんな

京都のお地蔵さん



(「大切にしたい京都の路地裏」応募写真から 撮影 松村シナ)

江戸時代の京都には、町ごとに木戸があり、夜になると木戸を閉めるような構造をしていました。木戸のそばには、悪いものが入らないようにお地蔵さんが置かれ、町内の人々は「地蔵祭」を行うなど、日常的に安全祈願をしていたとされています。今日でも、地蔵菩薩の縁日である8月24日前後の土日に、地域と世代を繋ぐ各町内の伝統行事として「地蔵盆」(京都をつなぐ無形文化遺産)が開催されています。



京都をつなぐ無形文化遺産

京都には、時代とともに変容しながらも、世代を超えて暮らしの中で伝えられてきた数多くの無形文化遺産がありますが、現行の法令上、文化財としての指定・登録が困難なものも多くあります。そこで、それらの価値を再発見、再認識し、内外に魅力を発信するとともに、大切に引き継いでいこうという気運を盛り上げるため、無形文化遺産を守る独自の仕組みとして「京都をつなぐ無形文化遺産」制度が創設されました。平成25年10月に第1号として「京の食文化」が選定され、以降、「京・花街の文化」「京都の地蔵盆」「京のきもの文化」が選定されています。



考えてつながっている、と感じることもありました。人と人とのつながりが薄いというか、新しい人とのつながりがどんどんできていく一方で、いなくなってもいく。京都とはある意味正反対の場所でしたね。出会った瞬間から自分らしくいることができたり、いきなりぶつかり合えるという面白みもありましたけれど。

（松本会長）

先ほどの講演でもお話しさせていただいたように、アメリカではお金で人を見るのですか、自分の思いはきちんと自分で主張をしなければならないというところがあります。日本のように人の気持ちをそんたくしないんですね。

例えば、日本でパーティなんかで「ビールはどう」って勧められたら、「結構です」と一応断りますね。そうすると、遠慮しているだけだと判断されて「まあそうは仰らずにもう一杯どうですか」と再度勧められます。勧められた人も2回目も断ってみて、3回目言われたら飲もうかなと考えます。「3度くらいは勧められるだろう」、「3回は勧めるものだ」と、どちらも思っているわけですね。日本にはそういう文化がありますよね。

アメリカでは一度でも「No thank you」と言うのと、もう誰もつぎにこないですよ。人種のるつぼであるがゆえに、ストレートでなければならない。そういう文化ベースなんですね。主張できる人は非常に主張しやすい。主張できない人も主張しないと生きていけませんから主張するようになるんですね。

日本・京都の文化には奥ゆかしさというものがあります。そこまで言うかって、敬遠されたりもしますが、日本の場合はみんな似たような環境ですと暮らしていて、多分あの人も自分と同じだという風に思うんですよね。ところが外国では、国にもよりますが全く違うルートで来た人同士が混在していますから、他人も自分と似ているっていう類推はできませんよね。

芸術家なら芸術家、写真家なら写真家の仲間では似ているところがあって、集団になれる共通の部分はあるのだと思います。でも、集団が全然違う自動車工場の工員さんとすぐ理解し合えるかって言われると、そうでもないですよ。その違いは大きいと思うんですよ。

市長が一番よくご存じだと思いますが、京都の場合はいろんな職業があって、扇子一つ作るのにも工程ごとに分業していたりしますよね。これはお互いを信頼しているからできる話ではないかと思います。その点どんな風に感じておられますか。

◆ 人がつなぐまちの文化

（門川市長）

松本先生は「学問は真実を巡る人間関係」という哲学をお持ちでしたね。本当に京都のものづくりも、文化・芸術も「信頼」「人間関係」「人のつながり」の中でできています。そのネットワークのどこか一つでも欠けたら何もできない。

トヨタの「ジャスト・イン・タイム」とか「カンバン商法」とか、あの原点は西陣の織物屋と言われています。西陣に行っても着物工場ってありませ

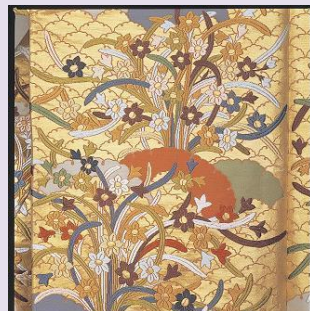
お金で人を見る

シンポジウムの前の講演で松本会長が紹介されたエピソードを参照

～私は40年ほど前にアメリカへ留学させていただきました。NASAの研究所である日「君の給料はいくらだ？」と聞かれました。当時月給が2万数千円だったので「2万円だ」と答えると「それは日給か？」と言うんですね。「日給じゃない」と言うのと「週給か？」というので「月給だ」と答えたんです。とたんに彼らの態度がコロッと変わるんですね。会話が上から目線になるんですね。～



西陣織



西陣織は、職住一体の家内工業が多く、図案、糸、染め、織りなど、各工程が高度に分業化され、いわば地域全体で西陣織を完成させています。各工程における、熟練した職人による丹念な仕事が、全体の高い品質を生み出しています。

ん。帯工場ありません。家内工業の一つ一つがずっとつながって最終的に西陣織や帯ができあがります。この製造工程をトヨタが学んだと言われています。

人と人が信頼でつながって、それぞれの場所で自分の責任を果たしていく。どこか一つが欠けたら全て進まない。千年を超える京都のものづくりのその背景にある精神文化、これが見事に先端技術と融合して、新たなイノベーションを起こしてきたということだと思いますね。

（松本会長）

今、市長が、京都は伝統に基づいてイノベーションを先導してきたとおっしゃいました。皆さんご存知だと思いますけど、京都の優良企業は京都に本社を置いていて、東京に移しません。大阪の大きな会社はほとんど東京へ本社を移していますね。日本中がそうです。だから東京にはずいぶんたくさんの企業の本社が集まっています。

しかし、京都の優良企業は京都からいきなり世界を見ているんですよ。堀場製作所さんとかもそうですよね。「東京なんか経由しなくてもいい」と、大きなプライドがあって素晴らしいと私は思うんです。ただ難点は、東京に比べて京都には人が集まらないということです。東京の場合は、企業の本社などが多く色々な人材が集まってきます。企業はそこから優秀な人を選択して社員を採ることができます。京都には「京都を愛している人たちが」集まってきますので、精鋭ではありますが、東京に比べれば人は集まりにくい。そうした中で、イノベーションをひきいるような大企業群が、京都にずっといるということは大変素晴らしいことだと思います。

（門川市長）

京都の企業は本社を東京に移さない。大丸も高島屋も松坂屋も三越も全部、京都の呉服屋さんの発祥で、明治維新頃に東京に行かれてしまいました。けれども、戦後の日本ではますます東京一極集中になっていますが、ありがたいことに京都の企業は京都に本社を置いて、京都にしっかりと根を下ろしています。同時に、東京を見て商売するのではなく、世界を相手に商売しています。このやり方はありがたいことですし、これから京都や日本が生きて行く道ではないかなと、この様に思いますね。

（稲岡さん）

私の家業である尾張屋も、東京ですとか、京都の外にお店を出すということは一切考えてないですね。やっぱりこの味と質が保てるっていうのは京都にあってこそ。一つ一つの素材も代々続く仕入れ先の方との付き合いがあり、私が子どもの頃から同じ人が持って来てくださいます。代替わりをしてもその息子さんが持って来てくださっています。京都以外では、それは当たり前じゃないんですよ。

代々続くつながりで本当にいいものを、気候の変化とかでなかなか仕入れにくい時期も頑張って集めてきてくださる。助け合いのつながりで、美味し

京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想

市民、企業、NPO、大学などの多種多様な組織や個人が、1200年の歴史に培われた京都を舞台にして、社会的課題の解決に挑戦することで、過度の効率性や競争原理とは異なる価値観を、日本はもとより、世界にも広めていくことを目的に、京都市が平成27年度から推進している構想です。

- ・ソーシャルビジネス企業認定制度の創設による社会的信用の付与、低利の融資制度や起業活動拠点の家賃優遇などの支援
- ・企業経営における社会的な意義をともに考え、社会的活動がビジネスとして継続できるよう助言するキュレーターの育成
- ・行政、企業、NPO、大学等を巻き込んだネットワークの形成、企業と公的機関とのマッチングを行う京都市ソーシャルイノベーションセンターの設置 など



本家尾張屋

室町時代、応仁の乱の2年前にあたる1465年、尾張の国から京都に来て、菓子屋として創業。1700年頃、初代・稲岡伝左衛門のときに蕎麦屋をはじめ、多くの寺院に蕎麦を納めたといわれる。その後「御用蕎麦司」として認められ、御所にも蕎麦を納める。以来、京都の歴史とともに550余年にわたり、菓子屋・蕎麦屋として続く。



いおそばとおだしが作れています。そういうのができる場所ってというのは東京でもニューヨークでもないし、京都だからこそです。

◆ コミュニティの再生と文化を次代に繋ぐ大切さ

（松本会長）

老舗を継いでいかれる環境ですから、確かにそうだろうと思います。

でも、私はちょっと違和感を覚えるケースもあります。この中にもそういう似たような感じをお持ちの方もおられるかもしれませんが、新しい人が京都へ入って来た時に、外から入ってこられた人達が、よくマンションに住みますよね。そうすると、横のつながりやまちとのつながりが少し希薄になっているんじゃないかという気がするんですね。そういう人達を人のつながりの輪の中にどうやって入れていくか。学校では少し交流があるんでしょうけれど、マンションの場合は、やはり隣近所のお付き合いは薄いと思います。市長は、そういうことは感じられませんか。

（門川市長）

正直言ってね、ちょっと深刻なんです。ここ城巽学区は私が生まれ育ったところなんですけどね、住民の半分以上がマンションに住む方々になっています。そして、町内会に入っていない人が多くなってきています。全市平均ですと、町内会に入らない人が3割にもなっています。

マンションなどに住んでおられて、これまでからの人の輪の中に入ってもらいにくい方が、町内会などに入っただけのような仕組みづくりをしようということで、「地域コミュニティ活性化推進条例」を作りました。条例を作って3年でかなりの人に町内会に入ってもらえるようになりました。今、加入率が70%程度なんですけど、当面77%までもっていきこうとしています。

ところがまた面白いことにね、地蔵盆のなかったこのあたりで、マンションの住民の人たちと昔から住んでおられる方が一緒になって、この京都堀川音楽高校で地蔵盆をされるようになりました。あるいは、マンションの住民の方などが呼びかけて、ラジオ体操が復活したんですね。こういう新しい潮流もあります。

そして、もう一つありがたいことに、京都のPTAは日本で一番活発だということです。「行動するPTA」なんですね。PTAの活動が学校を盛り上げ、この二十年で京都の小・中学校の教育が大きく前進したんです。PTAは任意加入制ということもあり、他都市では、強制じゃないから入らないという人が出てきています。京都ではそういうことはないんですね。

昔はPTAの活動がその後の女性会の活動や体育振興会などの自治会活動などにつながっていました。PTA活動と地域の活動を結んでいく、この流れをもう一度作り直すなどして、京都の最大の宝である地域力・人間力、これをもう一度大事にしたいですね、と思うんですね。

（松本会長）

市長がそういうお考えですと市民も安心だろうと思います。京都に入って

地域コミュニティの現状と課題



- ・自治会、町内会の課題
高齢化や人口減による役員のなり手・担い手不足、未加入者や地域活動への無関心層の増加、地域活動の従事者や参加者の固定化による負担感増による退会等
- ・自治会、町内会の加入率 69.8%
(平成26年度京都市自治会・町内会アンケート)
- ・一人暮らしの高齢者が増加
京都市内で65歳以上のいる一般世帯のうちの単身世帯の数(国勢調査)
S62 22,892世帯 → H22 70,738世帯
- ・地域とマンション等の関わりが希薄
全く関わりがない 26.5%
(平成26年度京都市自治会・町内会アンケート)



京都市地域コミュニティ活性化推進 条例

地域コミュニティ活性化に向けた基本理念を定め、京都市及び事業者の責務、地域住民の役割を示し、取組を計画的に推進することを目的として、平成24年4月に施行されました。

条例に基づき、京都市地域コミュニティ活性化推進計画が策定され、平成32年度に、

- ・自治会等加入率 77%
- ・市所管のNPO法人数 920法人

を目標に、自治会、町内会等の活動支援や地域活動を行う各種団体の連携強化の取組などを進めています。

城巽学区

城巽学区は、二条城から辰巳(巽)の方角にあることから城巽と名付けられ、釜座から堀川、二条通から三条手前までに囲まれた地域で、真ん中を御池通が横断しています。明治から大正、昭和初期は友禅流しの染処のまちとして栄え、現代も和装工芸の職住の地域ですが、近年、御池通には高層ビルやマンションが建ち並び、人口は増加の傾向をたっています。元城巽中学校跡地にできた京都堀川音楽高等学校は地域活動の拠点としても活用されており、学区を挙げて「音楽のあるまちづくり」も進められています。



PTA

PTAは「Parents and Teachers Association」の略語で、保護者と学校が「子どもたちの健やかな育ち」にのっとる最善を常に考え行動する組織です。京都市立の小中学校等では、対象世帯の約99%に当たる約8万世帯が加入しており、運動会、子ども見守り隊などの登下校時の安全対策、学校行事、放課後まなび教室など子どもの放課後の居場所づくりへの協力や、地域との交流、他の学校との交流など、保護者がネットワークを広げる取組を行っています。



きた人も、やっぱりせっかく京都に来たんだから、京都の文化になじみたいという気持ちはあるだろうと思うんですね。だから昔からあるコミュニティとの接点を探って埋めておられると思うんですけど、ギャップがあることは間違いないんですね。ギャップをどうやって埋めるかですよ。

ところで、稲岡さんの子どもさんはおいくつですか。

（稲岡さん）

来年の1月で2歳になるので、まだ小さいです。

（松本会長）

じゃあ学校の話はまだまだですね。

（稲岡さん）

そうですね。ただ、子どもができる前は自分の興味のある写真や家の老舗のつながりの中での社会が自分の中心でしたけれども、子どもができることでご近所の方との新しいつきあいも始まっているように思います。

今お話しされていたように、他の地方から来られてマンションで暮らしている方との距離を縮め、どのようにして京都になじんでいただくか、また、外からのいい部分をどう取り入れていくかっていうことも、これからの京都のまちづくりだと思うんですね。

あと、外国人の方にたくさん来ていただいています、みんなこの京都に住みたいって言われるんですよ。そういう風に思ってもらえる場所であり続けるためには、やっぱり京都の良さを守りながら、外からの人も受け入れていくっていうことが必要なんだと思います。

今がすごく変わり目なんだと感じています。これからの京都がどういう風になっていくのか、変化が楽しみでもあるし、でも、ちゃんと守らなきゃいけないものもあるんじゃないかなって感じています。

（松本会長）

稲岡さんのような伝統あるおうちの後継者さんの「京都を大事にしていきたい」という気持ちが、子どもさんにも多分伝わっていくんだと思いますし、ぜひそうしていただきたいと思います。

京都には山や川があって神社仏閣もたくさんあるだけでなく、同時に精神文化がそこにありますね。お茶やお花あるいは、人々が自然と神様あるいは仏様に手を合わせる、そういう精神文化もまた外国人にとっては非常に珍しいことだと思うんですね。キリスト教にも人々がつどう場所として教会が一つのコミュニティの核になっているんですが、京都の場合はもうちょっと小さくまち単位で、そういう核になるものがあるような気がします。

外国人が住みたがるという話ですが、京都大学の外国人研究者は、一旦帰国しても、よく京都に戻ってくるんですね。それに、研究成果そっちのけで京都のまちを歩いて回る研究者も結構います。大学がお金を払って来てもらっているのだから「ちょっとどうかなあ」とも思うんですけど…。まあ日本文化

京都の伝統文化の授業

京都の伝統文化を理解し、受け継ぐことの大切さを子どもたちに伝えていくため、京都市の小・中学校等では、職人の方や文化芸術の専門家の方、大学、博物館、神社仏閣、企業などの協力を得て、西陣織や清水焼などの伝統産業の制作実演や茶道、華道などの体験、歴史文化遺産や京都三大祭をはじめとする地域の伝統行事の見学、参加などを授業に採り入れています。



京都市の外国籍市民・留学生

- ・外国籍の住民基本台帳登録者数
平成 26 年 40,565 人
平成 27 年 41,609 人
平成 28 年 42,567 人
- ・市内大学等の留学生数
平成 22 年 5 月 5,592 人
平成 27 年 5 月 6,998 人



京都の精神文化

-茶道-

日本文化そのものとも評され、世界に誇る精神文化である茶道。室町時代、京都の地で草庵茶の湯を考案した村田珠光の精神を受け継ぎ、千利休がわび茶道として大成。人と人とが互いに尊敬しあい、つつしみあうという「和敬静寂」（わけいせいじやく）の精神は、脈々と今に伝えられ、現在京都には、表千家・裏千家・武者小路千家の三千家をはじめ、利休の流れをくむ家元が数多くあります。

-華道-

草木の生命・風興を基とし、花をいける事によって悟りにも至るという、単に花を鑑賞するだけではない花をいける「こころ」を広く世界に伝え、日本を代表する薫り高い文化として栄える華道。室町時代、「六角さん」の愛称で親しまれる京都の六角堂に住んでいた寺坊が、朝夕宝前に花を供えたことが華道のはじまりとされています。以来500有余年の歴史を有し、現在京都には数多くの華道の家元があります。

を学んでいるということで大目に見ていました。

また以前は東京に住んでいる外国人に頼まれて京都での宿泊先を紹介することがよくあったのですが、ホテルを手配しようとする「そうじゃない、旅館に泊まりたい」って言われるんですね。「旅館ってドアにロックかからへんで」って言っても「かまわない」とか言うんですよ。結構、日本の文化、京都の文化に関心持っている人は多いですね。

◆ 京都の文化の奥にあるこころの発見と発信

(門川市長)

先ほど松本先生が講演の中で問題を指摘された「ポケモンGO」ですが、私も問題はたくさんあると思うんですけど、このシステムを使って新しいことをできないか研究中です。

その「ポケモンGO」の前身の「イングレス」というゲームを発想された、ジョン・ハンケさんが、ゲーム制作会社のナイアンティックの村井社長と一緒に去年の5月に京都に来られ、お話をさせていただいたのですが、「イングレス」の発想は京都の日本庭園を見ていて思いついたそうです。アメリカでは若く健康な人が家にずっと引きこもってゲームをしている。「まちに出よう、いろんな出会いがある」という風に考えたのが始まりなんだそうです。

この京都には不思議な力があります。その伝統、暮らしの美学、語る哲学、お地蔵さん、こういうものがあるのと同時に、新たなイノベーションが起こる、発想がわいてくる、何か不思議な力があります。

また、今、世界の人々が宗教の対立で非常に不幸なことになったりしていますね。京都には私立幼稚園が約100園あるんですが、仏教系の幼稚園もキリスト教系の幼稚園もあります。私が教育長の時に、お寺が経営されている幼稚園に行ったらシスターが来てお焼香されていましたし、キリスト教系の幼稚園に行ったら法衣を着た人が讃美歌を一緒に歌っておられました。ちょっと世界であまりないような風景が見られます。また環境に先進的に取り組んでいるまちでもあって、京都議定書が誕生したまちでもあります。

従いまして、「環境破壊とか宗教対立、競争・経済一辺倒というようなものを考え直しませんか」という、先ほどのご講演での松本先生のメッセージを発信していくのに一番ふさわしい文化が、京都にはあるのではないかなと思います。

更には、今の世界にあるあらゆる困難な課題を解決していく力が京都にはあるのではないかな、その京都に文化庁が移転してきた時には、このフォーラムも中心となって、もっともっとそういった深掘りした文化を共有できるようにするのではないかなと思うんです。

(松本会長)

文化庁と言えば、東京にはあらゆるものが集中・一極化していて、ある意味一つの国のようですね。スマホなんかで色んな情報が手に入るようになりましたが、「強震モニタ」というアプリがあります。地震がどれだけ起きているかを地図上に表示してくれるんですね。この「強震モニタ」は国の研

文化庁の京都移転

京都市では、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」を行い、昭和62年以降、首都機能（文化芸術関係機関）の移転を継続的に要望し、平成14年に文化庁長官分室が、平成19年に文化庁関西分室が京都に設置されました。

平成27年3月、国が政府関係機関の地方移転に係る提案を募集したことを受けて、文化庁京都誘致協議会を立ち上げるなど、オール京都、関西が一体となって移転を要望し、平成28年3月、国の政府関係機関移転基本方針により、文化庁の京都への全面的移転が発表されました。

移転に当たっては、地方創生の観点から、新・文化庁の役割は従来の文化芸術の範囲にとどまらず、観光・産業、教育、福祉、まちづくり等の様々な関連分野との連携を強化するための体制の強化・充実を図ることとされています。

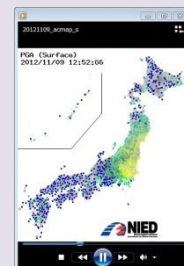
有形、無形の文化財を数多く有し、日本の歴史、伝統、文化、こころを受け継ぐ京都に、文化行政の中核組織である文化庁を移転し、「文化首都」として更に発展させることは、日本全体の文化力向上に大きく寄与するとともに、東京一極集中の是正を目指す地方創生の突破口として期待されています。



東京一極集中

- ・東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）に全国の1/4以上の人口（面積は3%程度）
- ・平成27年国勢調査では全国の約8割の市町村で人口減少、大阪府も転出超過
- ・大学進学、就職等で、特に、若年層の東京圏の転入超過が顕著
- ・東証上場企業の約6割の本社が東京圏に集中し、国内総生産は約3割
- ・首都圏への人口集中度合いは、世界的にも特異な状況で他の事例は韓国のみ。

強震モニタ



防災科学技術研究所が全国の地震計のネットワークで観測した今現在の揺れを、そのままに近いかたちで配信しているWebサービス。日本列島の今の揺れを可視化しライブ中継しています。

研究所である防災研究所が無料提供しています。見ていますとね、全国のありとあらゆるところで点滅していて、とりわけ東京周辺でもいつも点滅しています。日本が地震大国だということがよくわかると同時に、大災害に対してぜいじくな国だということもよくわかります。京都は色々とあったにしても、幸い千年間こうして無事に生き延びてきたわけですからこれを守っていかなければいけないと思います。

「強震モニタ」って、意外と便利ですよ。地震があればテレビや携帯電話にも通知がきますが、それよりも10秒早く鳴るんです。「10秒あったら逃げられる。このアプリをスマホに入れておけ」と友人に教えられたんです。

日本は地震国ですし、国土といってもカリフォルニア州ほどの大きさですからそれほど広いわけじゃありません。その中に一点集中するのは得策ではないような気がします。もちろん経済的には集中した方が良いに決まっていますけれど、人間って経済活動だけじゃありませんのでね。

ところで、写真家でもある稲岡さんに来ていただいているのですから、写真のお話も伺いたいのですが、京都の光って違いますか？

（稲岡さん）

5年ほどかけてアイスランドの風景を撮ってしまして、2008年に写真集として発表しているのですが、ずっと好きで撮ってきたものを形にして出した時に「実はこれ、アイスランドっていうすごく遠い国まで来て京都の記憶を撮ってたんだな」って気づいたんですね。

光が似ているんです。北欧では夏になると太陽がずっと沈まないんですけど、すごく厚い雲がかかっていて、雲から透^すけてくる光が、障子^{しやうじ}を通して部屋に入る光にすごく似ているんです。私は高校生の時にサンディエゴにいましたけれど、カリフォルニアのパキッとした光はやっぱり自分が求めているものとは違うんですね。

アイスランドには温泉がたくさんあるのですが、すごく故郷を思い出す場所でした。撮っていたのは「水・石・苔^{こけ}」と「湯気」なんですね。水は蒸気になって目に見えなくなっていくますよね。見えないけど存在しているという世界にすごくひかれていました。

先ほど先生の講演を聞いていて思い出したのですが、アイスランドは初めて「地球って惑星なんだ、宇宙に浮いてる星なんだな」という風に感じた場所なんです。でも、それが京都のお庭に座って感じたこともある記憶につながったり、子どもの時の記憶、京都でしか感じられない細胞に残っているような感覚っていうものが自分の生きる大きな力になっている感覚がしていました。

（松本会長）

面白い話を聞かせていただきました。京都の場合には天から来る光、木の葉を通して見える光、水面に反映される光、神社でものかげからもれ出てくる光、いろいろありますよね。そういうことが稲岡さんの感覚をはぐくん

アイスランド

北大西洋の北極圏近くに位置する島国。面積は北海道と四国をあわせた程度で、人口約33万人。首都レイキャビク。氷河と火山による独特の自然景観を持ち、温泉や地熱発電、オーロラなどで知られる。



稲岡さんの作品：シリーズ「SOL」より

京都の自然・歴史的景観



京都の自然景観は、三方を山々に囲まれ、その内部に川筋のある特徴的なものであり、このような盆地景は先人たちが原風景として捉えてきた京都の景観の基盤とも言えるものです。また、点在する著名な社寺や史跡などの歴史的資産が、相互に重なり合うことで風情豊かな歴史的景観を生み出しています。そこには、伝統として受け継がれてきた都の文化と町衆による生活文化が色濃く反映され、四季折々の彩りとともに、品格と奥深さを与えてきました。



京都の文化を外から見られると、日常的にここで暮らしている我々よりもよく見えたと思うんです。これは誰しもが言いますが、外国に行くと日本が見える、外国に行くとまちが見える。そういうことをほんとに経験されたんだと思います。

◆ 次の世代と文化を「はぐくむ」

（松本会長）

さて、そろそろ時間ですので、今後、文化力を生かしてどういう京都のまちづくりをしていくかを市長にお伺いし、稲岡さんからはこんな風にあって欲しいなということを、一人の市民として教えていただければと思います。

（稲岡さん）

文化は人が作り上げてきたもので、人のつながりがあって今のこの京都があるのだと思います。京都にはよそには無いすばらしいものが、今でも当たり前に残っている所だと思います。私も母親になったからにはやはり、祖父や祖母、父や母がやってきたことを、私も続けて子どもに見せていきたいと思っています。

子どもって、やりなさいって言ってもやらないじゃないですか。親たちがやっている姿を見てきたからこそ、自然にやれるのではないかなと思います。ですので、大切なことはちゃんと自分も守ってやっていきたいと思っています。

（松本会長）

市民一人一人がこの京都をどのようにしたいかということが大変重要ですね。どういったまちにしていきたいか京都市民の思いが決めていきますが、それをたばねて形にするのが行政の仕事だろうと思います。市長はどういうビジョンをお持ちですか。

（門川市長）

京都の世界に冠たる歴史都市です。世界に歴史都市はたくさんあるけれども、人口が百万人を超え、千年を超えて都市の中で息づく文化が一度も遮断されずに続いているまちは京都だけでしょう。

文化というのは抽象的なものですが、究極は人間の生き方、地域社会のあり方、こういうことがずっと千年を超えて続いている。それをしっかりと大事にしながら世界の人々を幸せにするような取組が大事なんじゃないかなと思うんです。

それと、地域力が大事だと思います。地域力って言う「自分達でやる」って考えがちですが、そういうことでもないですね。自分たち以外の力も受け入れて一緒にやっていく。今、外国の方もたくさん京都に住んでおられますし、そういう方の力も合わせて一緒にやっていきたいなと思っています。

大昔の話ではありますけれども、京都のまちは渡来人が作ったまちという歴史もあります。したがって、どんどん世界の人を受け入れながら、しかし、

世界歴史都市連盟

京都市が事務局を務める、世界歴史都市連盟には、平成28年6月現在、63か国・地域から112都市が加盟しています。連盟では、「歴史都市の保存と開発」という歴史都市が直面している課題の解決を目的に、歴史都市という共通の絆で結ばれた都市間の、日常的な交流を促進しています。

 The League of
Historical Cities

京都のまちと渡来人

京都市生涯学習市民フォーラムの副会長、京都市社会教育委員会議長の井上満郎氏（京都市歴史資料館館長、京都産業大学名誉教授）によるご講演、京まなびミーティング「[渡来人が来たころー国際都市京都のはじまり](#)」(平成28年4月8日@京都アスニー)もご参照ください。



桂川の上流を大堰川と呼ぶのは秦氏が朝鮮半島からもたらした灌漑技術で堰を作ったあたりを開発した名残りなんだって。



京都人が大事にしていることはしっかりと守っていく、そんな京都として飛躍していきたいなと思います。

そこで一つだけお願いがあるんです。先ほど松本会長が言われた愛想のお話です。おもてなしのまちと言いながら外国から来た人に対して知らん顔をしている、「知らない人には知らない顔、知っている人にはええ顔」。この文化をちょっと変えていきませんか。今、一人暮らしの人がすごく増えています、あるいは核家族化しています。まちのみんなでもっとニコニコしましょう。知らない人でも笑顔で声を掛ける。こういう新しい文化も作らなければならないと思います。

先日、「^{はくじょう}白杖安全デー」の50周年の集会がありました。京都は日本の大都市の中で一番、白杖で歩いている人が多いまちなんですね。九州から来られた人が、昔大学入学で京都に来た時に、白杖をついて歩いていてバス停で待っていると、知らない方から「何番にお乗りですか」と声をかけてもらったそうです。こういったことは自分のまちではなかったと話しておられました。知らない人が知らない人に声をかけ合う、こういうことも大切ですね。

京都に「はぐくみ文化」を育てましようということで、来年4月に、京都市に「子ども若者はぐくみ局」を創ろうとしています。「子どもをみんなではぐくむ」。それをしていくと同時に、地域社会もはぐくまれて、高齢者もはぐくまれる。「もったいない」とかいろんな日本語が国際社会で認知されていますが、「はぐくみ」も国際的に認知されるくらいにしたいですね。

（松本会長）

素晴らしい考えだと思います。日本は高齢化が一番進んでいる先進国になります。今、市長が言われましたが、孤立していく人が多い中で社会にそういう人をつなぎとめていかなければなりません。

これまでの日本社会の場合は、密度の濃いつき合いがずっと続くことで、お互いを助け合うネットワークができあがるんですけど、今は、あらゆる人と人との関係が敬遠されてきているんですね。お互いに他人様ということであっても、できることをやって余計な詮索^{せんさく}をしない、例えば交差点で高齢者が道路を渡る時には手を差し伸べて、渡り終わるとサッと去っていても構わないんです。そういうことからでも少しずつコミュニティをはぐくんでいかないとハードルが高いと思います。「はぐくむ」というのはまさに少しずつ、教育環境だけをガラッと変えても、先日の白杖の方がホームから転落する事件のようなものは防げないのだと思います。

稲岡さんには、是非、京都の良いところをカメラで切り取っていただいて、情報を世界に発信してもらいたいと思います。

皆さん、ありがとうございました。

まちの文化や伝統は、何気ない毎日の暮らしの中にたくさん見つかるんだね！

京都の良いところをもっと知って、未来に伝えたり、世界に広げていきたいね！



はぐくみ文化

京都には、町衆がみずから日本初となる番組小学校を創設した歴史や地蔵盆など、子どもを社会の宝として大切にしてきた伝統があります。この伝統を継承するとともに、大人も子どもの模範となり、子どもと関わる中で自らも成長していくことが大切であるとされています。

こうした考えに基づき、京都市では「子どもたちの今と未来のために、大人として何ができますか？」を合言葉として、市民の行動理念を定めた「子どもを共に育む京都市民憲章（はぐくみ憲章）」（平成19年2月5日）が制定されています。

子どもたちの笑顔のためにできることから始めませんか？



京都はぐくみ憲章

